

# 市町村合併を考える

(( キラリとひかるまちづくりをめざして ))



11月7日  
市町村合併町民懇談会開催

11月7日(木)、町民センターにて、「市町村合併町民懇談会」が開催されました。会場は約200人の町民の皆さんで埋め尽くされ、市町村合併に対する関心の高さが感じられました。

今回、国が進める市町村合併は、全国ほとんどの市町村で検討がされるなど、その動きは一段と強まっております。その背景には、合併にあたり国からのさまざまな支援がある合併特例法の期限が、平成17年3月31日までとなっているからです。合併の協議に必要な期間は約2年。合併するにしても、しないにしても、その具体的な協議を関係4町で進める時期に来ています。

今回の懇談会は、これからの合併論議を進めるうえで、町民皆さんが市町村合併についてどう感じているのか。どんなご意見を持っているのかをお聞きすることを目的に開催し、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

「市町村合併を考える」の第3弾は、懇談会でのご意見などを中心にお知らせします。

## 強制的な 国の進め方

国は、地方交付税の削減など財政論議により合併を協力に進めています。地方自治を無視している面もあります。全国の市町村長も強制的な合併に遺憾を示しています。

しかし、長引く景気不況の中で国も地方も財政状況は厳しく、こうした機会に様々な角度から問題点を議論する大事な時期でもあります。

## 平田町長の開会あいさつ(要旨)

### これまでの検討

町の合併研究会では、主に財政状況の検討を行い、合併パターンの北部4町の助役・担当課長による4町圏域行政推進勉強会では、広域行政のあり方を中心に検討し、来年4月からは介護保険事業の広域連合がスタートします。

### まちづくりは 100年の大計

4町が合併した場合、一部の町だけがメリットがあるような合併は意味がなく、すべきではないと思います。昭和の大合併を見ても、端にあった町は人口が減って淘汰されています。

これからの議論の中で、農業の町と漁業の町が一緒になって大丈夫か。財政力が弱くなった町同士が一緒になって健全な町ができるだろうか。コミュニティが崩壊しないか。など、さまざまな角度で考えていかなければなりません。

まちづくりは、100年の大計にたって考える必要があります。

### 4町での 議論が必要

最近、近隣各町でも合併の説明会や懇談会をやっています。その中で、職員や議員の削減で行政効率が高くなるような発言もありますが、4町が集まったの議論を一度もやっていません。

地域の皆さんに誤解を与えないよう、4町の代表が集まって地域の将来を議論する時期にあると考えています。

今日の懇談会は、こうした議論の場を立ち上げるためにも、合併問題をみんなで見出し、瀬棚のあるべき姿を見出し、ききたいと思いを開けました。忌憚のないご意見、積極的なご発言をお願いいたします。



### 懇談会で説明した資料の内容

#### 市町村合併の経過

市町村合併の歴史 国などの動き 合併パターン 合併手続きと時間 特例措置の概要

#### 検討資料

合併パターン4町の比較

(1)町の概要 (2)人口の推移 (3)面積 (4)行政 (5)財政 (6)町税等 (7)住民サービス (8)産業・経済

国が示す合併のメリットを考える 合併しない場合の考え方 財政の将来推計



# 意見交換



出席された皆さんから自由に発言していただき、町長・助役が回答する形で進めました。発言・回答内容については、紙面の都合上、趣旨を損なわない範囲で要約させていただいております。

## Q

後世に悔いを残さないよう、  
一丸となって考えるべき

いろいろな説明がありましたが、だいたい理解できました。  
市町村合併は、するしないどちらかを選択しなければならぬが、厳しい財政状況が続くことにより、これからのような地方自治を作り上げていくのか。合併後の地域格差や住民の意向反映などが懸念される。  
期限付きの合併推進やミニ二町村に合併強制など、国主導の合併という感がしてならない。合併しなければならぬのか、しなくても

いいのか、行政のシミュレーションを早急に作る必要がある。

合併は選択肢のひとつ。住民が十分理解するには時間が必要。来年3月までに結論を出すには期間が足りないと感じる。目先の損得勘定や特例措置にとらわれるべきでない。

行政側からの情報提供が必要。上富良野町で行った町民アンケートでは、反対・わからない合わせて58%だった。

今後の協議の中で、メリットを検証する必要がある。後世に悔いを残さないよう、議会・町民が一丸となってこの問題を真剣に考えるべき。



## A 町長

ただいまの提案は、もっともと受け止めています。全国の各町村でも期限を切った半強制的な進め方だと認識しています。

地方制度調査会の思案は、合併期限までに相当数の町村が合併できないだろうという見方から、期限後の次の措置という考えですが、決まっているわけではありません。

地方交付税を含めた地方財政計画が示されず、将来の小規模自治体のあり方が見えない中での議論は難しい。皆さんにきちんとした説明ができないのが大きな問題。

直接皆さんと話し合うのは、今回が初めてです。広報でも情報は提供していませんが、それだけでは理解できないと思います。今回このような形で相対的に説明し、皆さんからの意見をい

アンケート調査のお願い

町民アンケート調査にご協力を！

ただいま、【町内在住20歳以上の全町民の皆さん】を対象に、市町村合併町民アンケート調査を行っています。皆さんのご意見を参考に、これからの議論を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。




**A 助役**

忌憚のないご意見をいただきました。これからさまざまな形の中で情報を整理しながら、瀬棚町の方向付けをまとめていきたい。

各町がまちまちな説明をしているので、4町の町長などによる任意の協議会により統一的な行動をとる方向に進めたい。

**A 町長**

離島は別扱いの問題であり、奥尻町の考え方になります。南部6町の中で議論しており、北部には入っていません。

瀬棚町は、過去2回の合併の議論をしています。結果として、役場の所在地で話が壊れています。仮に合併するならば、まず役場の所在地がどこになるのか、町名をどうするのかを議論しなければ、最後にこの議論で終わってしまいます。これは、大きな教訓です。例えば、4町の森林組合の合併も、最終的に事務所の問題で一つの町が抜けたという現実を考えると、こうした経験を生かしながら議論を展開すべきです。

ただき、今後の進め方としては、20歳以上の全町民を対象に簡単なアンケートを12月にやってみたいと考えています。そのあと、町民の代表による検討協議会を開きたいと思えます。

地域や団体で懇談会の希望があれば、積極的に話し合う方法をとっていききたい。

**Q 再質問**

例えば、パターンに入っていない奥尻町も含めた検討も必要。住民意識の調査も必要。合併しない場合のメリット・デメリットの検討も必要。

町民は合併問題に関心がある。とにかく情報を出してほしい。

住民周知は、これからも今回の内容に基づいて情報提供していきたい。

**Q**

商人として、合併は反対

商人の一人として、合併されるといことはますます過疎化が進むと思う。商人として、合併は反対。

合併しない場合の考え方も、町民の知恵を借りればよい意見も出てくる。

Q

### 知恵と工夫で生き残りを

最近、国の強引な進め方が露骨になってきている。北部4町の面積が別海町とほぼ同じ。この別海町は、香川県と同じくらいの面積で、県の中には43の市町村があることからすると、全国一律に合併を進めることは問題。

中心になる町は繁栄し、周辺の町が寂れていくことは明白である。資料によるとメリットはほとんどない。市にもなれない。財政の締め付けもあるが、知恵と工夫を出しながら生き残りの方法を考えていかなければ

ならない。

特例法の延期という報道もされています。議論を重ね、100年の計を間違わないようにしなければならぬ。町民に確実な情報の提供をしていただきたい。

A 町長

できる限りの情報は提供していきたい。

個人の意見ですが、4町が合併した場合の中心は瀬棚・大成ではないと誰しも考えます。中心になる町の合併に対する考え方と、端の町の考え方には相当違いが出てきます。それを踏まえた中での対応を考えていかなければなりません。

昭和の大合併の例のように、端の町が淘汰されないよう、建設計画の中に町の特色など今以上の手当てをしなければ、一部の町にしかメリットが出てこない。これはすべきではないと考



えています。

4町が何もしないで自分の町の議論だけでも進まない。何らかの形の協議会をつくるべきと思っています。

Q

### 生き残りは、町民の自助努力が大切

漁協合併の際は、大変苦労した。瀬棚町からも大きな支援をいただいた。

国の財政破たんから進められている、地域を無視した今回の合併は遺憾である。

町の中では、平田町長就任以来多額の借金をつくり、明日にでも倒産するようなことが聞かれたが、町広報で財政の説明があり心配ないことがわかり安心した。今日の説明でもよくわかった。

これは、必要最小限の対策としての温泉施設、保育所新築、診療所開設など町



民の声が大きかったことから進められたものと確信している。また、日本一になった茂津多岬灯台の改修により、安心して操業できるようにになった。

大きな財産であるマリントウンができることによって、瀬棚の浜が全国に出荷できる拠点となる夢を持っているので、この計画を進めていただきたい。これは浜の総意である。

### A 町長

町予算は、平成25年には7億6千万円程度の減となる説明がありました。時代背景から当然の論理であると思う。瀬棚町が生き残るためには、町民も町に頼ることなく、自助努力・自己責任が大切だと思う。

農業の町と漁業の町が一緒になってうまくいくのか心配している。今後の進め方について、どう考えているのか伺いたい。

生産性を上げるための社会資本の整備は、マリントウンを中心に行ってきた。そして、新しい社会資本の整備として保健・福祉・医療の整備も概ね終わったと思っています。今後は、ソフト部分の充実となり、大きな財源投資は減るとすれば、現在の35億円程度の財政規模が25億円程度になっても、町民サービスに支障がないと考えています。

これから、生産性につながるさまざまな課題に取り組んでいきたい。

昭和の大合併のときは、瀬棚町は財政再建団体でしたから、今回以上に強制的な状況だったにもかかわらず、当時の関係者や町民の強い決意で合併しなかったという経過もあります。それほど覚悟を持って、皆さんのご理解をいただきながら進めたいと思っています。

Q  
議論は、  
尽くさなければならない

という話を伺った。結果は別に、議論は尽くさなければならない。これから色々と意見の交換しながら、勉強していきたい。

### A 町長

今まで議会との協議はほとんどなく、それぞれで検討してきました。次の段階として、議会との接点をどう進めていくか模索していきたい。

これから本格的な議論になる場合、議会の議決を経て法定協議会を作るとなれば、当然、事前の協議を重ねなければならず、綿密な連携をお願いしたい。

パターンの中の他の町では、4町合わせて570人の職員がいて、合併することで大幅に削減できると言っているが事実なのか。

今日の熊石町での総務省の方の講演では、3千人の町で30人も職員がいれば十分だと離されていた。8月に別の講演で聞いた内容では、合併の考え方の基本は役場の所在地や財産が問題となる。そして最後に職員が問題。小規模町村の役場は雇用であり、経済効果にもつながる。職員削減だけで問題は解決しないと

4町570人を200人には出来る話ではない。病院や診療所だけで200人。簡単にそういう話をすべきでない。そのため、4町の基本的な姿というものを議論する必要があります。

Q

前向きな生き残り策を大前提に

先ほど、商店の立場で反対という意見がありました。私も、商人の一人として意見を述べたい。  
商店は、町の形成に役立つと思っている。役場の所在地にならなかった場合、職員の減少や交流人口の減も想定しなければならぬ。そうすると商店経営がでなくなる。自然淘汰で商店が減っていく。これにより、高齢者などへの公的サービス以外のサービスが欠落していく。そして、不便さから人口の流出は避けられない。

合併してもしなくても、痛みはお互い我慢しなければならぬ。  
最近の取り組みに対し評価されていることを考えると、瀬棚町のあるべき姿として生き残り策をもっと具現化する必要がある。もっと、前向きな生き残り策を大前提に進めるべき。

A 助役

挑戦し地域を残したいというご意見を十分参考にし、今後の議論の過程で力強い意見として受け取りました。



Q

今金町の動きは

今金町で渡島を含めての動きがありますが、この合併パターンのとおりでしょうですね。

A 町長

現在は、この4町で議論することになっています。介護保険の連合が立ち上がる中でそういう方向でいいのかという問題もあります。  
町民の意見や北松山と今金の中心地の確執のようなものもあると思われるが、公の立場では今後4町でやっていきたい。

地方制度調査会「西尾私案」とは

■首相の諮問機関・地方制度調査会の西尾勝副会長(国際基督教大学教授)が、平成17年3月に合併特例法の期限が切れる後の合併促進策として公表した私案をいいます。

■その内容は、全国の市町村を事務処理能力や財政基盤を備えた一定規模以上の基礎的自治体に再編するため合併を推進するもので、特例法の期限切れ後も合併しない小規模町村を対象に法律で最小人口を定め、一定期間かけて合併をさらに推進し、それでも合併しなかった場合、権限を大幅に縮小するか、自動的に合併せざるを得なくするという案です。



全国町村会で反対決議

■全国町村会は、11月27日、全国町村長大会を開き、西尾私案という形で打ち出された小規模市町村の強制合併や権限縮小などについて、反対の緊急決議を行いました。また、私案に対し「人口規模の小さい町村を切り捨てるのは横暴極まりない」などと強く批判し、来年2月に大規模な集会を開き、強制合併への反対運動を展開する予定です。



目指すは  
キラリと光る  
まちづくりです

